

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・前年度は全学級で授業研究会や校内自主研修会を実施し、「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善ができた」と評価した教員は91%であった。タブレット端末の効果的な活用と併せて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図っていく。 ・地域と連携した本物に触れる体験活動を通して、児童の自己肯定感を高めることができている。 ・前年度、外遊びの推奨により外で遊ぶ児童が増えた。運動の楽しさを味わわせながら、運動習慣を形成していく必要がある。 ・前年度も時間外在校等時間の平均は30時間を切った。
------------------	---

2 学校教育目標	「豊かな心をもち、自ら学ぶ、たくましい久里の子の育成」 ～元氣・笑顔・思いやりがあふれる学校～
----------	--

3 本年度の重点目標	①SWPBS「学校全体で取り組むポジティブ行動支援」の視点を取り入れた人権教育（校内研究）の推進 ②いじめの未然防止、早期発見、早期対応、再発防止に向けた組織的な取組 ③インクルーシブ教育の視点を踏まえた特別支援教育の充実 ④児童と向き合う時間を生み出すための効果的な働き方 ⑤保護者・地域と連携し、信頼される学校づくりの推進
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践のに基づく「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善による学力向上	○個別最適な学びと協働的な学びに関する質問項目に対して、肯定的に回答した児童及び教職員が80%以上	・定期的に校内研修等で「唐津の学びスタイル」の進捗状況を確認し、効果的なタブレット活用も含めて、好事例を共有する。 ・授業で活用した学習教材やワークシートを共有フォルダに保管する。		・		・		・	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校は、豊かな心を身に付ける教育活動を行っている」と回答した保護者が80%以上 ○家庭で道徳で使った資料を読んだり、おずさんと話したりしている」と回答した保護者が80%以上 ○道徳の授業で、自分の考えだけでなく自分とは異なる考えに気づくことができる」と回答した児童が80%以上	・地域と連携した本物に触れる体験活動や学校行事等を行う。 ・体験活動後は振り返り活動を充実させ、価値付け。振り返りシートは必要に応じて、掲示する。 ・道徳で活用した資料等を家読の一環として協力依頼し、家庭と学校で心の教育の価値づけを行う。 ・多様な考えに気付くことができるよう発問を工夫をしたり、視覚的に板書を整理したりする。		・		・		・	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教職員が90%以上 ○「学校は仲間作りに取り組んでいる」と回答した保護者が80%以上	・日常の児童観察や毎月の「なかよしアンケート」等、Q-Uを基に、児童の状況・状態の変化に気づき、組織的に改善策を考えていく。 ・初期対応が重要であるという認識のもと、事案が発生した際は記録を残し、管理職を含め、組織的に対応していく(事案は大きく捉え、小さく収める)。 ・課題や配慮を要する児童については職員同士で密に情報交換を行う。 ・人権教育の視点でQ-Uアンケートを生かした取組を実践し、良好な集団作りを目指す。 ・必要に応じてSCやSSWとも連携し、よりよい方向性を見出す。		・		・		・	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生は自分のよいところを認めてくれている」と回答した児童が80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」と回答をした児童80%以上	・年間を通して全職員で児童の頑張りを認める声掛けを行う。 ・仲間づくり、縦割り班での異学年交流、全校での集会活動を等してよりよい人間関係の構築を図る。 ・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 ・キャリアパスポートを計画的に活用する。		・		・		・	
	○学校全体で取り組むポジティブ行動支援等を等して居心地のよい学校・学級づくりを目指す教育活動	○「学校で安心して過ごせている」と回答している児童80%以上。	・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・応用行動分析の手法を用いた環境調整により、児童の望ましい行動を引き出し、ほめて強化する。 ・児童の善い行いに気付いた教師・児童が「なかよしアンケート」を書いて本人に知らせることで、児童のよさを互いに認める温かい雰囲気作りをする。		・		・		・	
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童が60%以上	・持久走大会、新体カテスト、運動会等の体育的行事を通して、児童がめあてをもって運動に取り組めるようにする。 ・日常の学校生活での外遊びを推奨する。さらに、「スポーツチャレンジ」の取組を推奨することで、運動の楽しさを味わわせながら手軽な運動に進んで取り組めるようにする。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。 ・食に関する授業を実施し、食事の栄養やバランス等を考える機会を作る。 ・給食週間には、給食委員会が中心となり、食の大切さなどを知らせる。		・		・		・	
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童が90%以上	・ボトムアップの視点で業務の見直しを適宜行い、働き方改革を推進していく。 ・定時退勤日の時間厳守。(金曜日) ・特定の職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。		・		・		・	
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限厳守。 ●年間20日の年次休暇のうち、取得日数14日以上	・含言葉「自分のため、家族のため、同僚のため、地域、そして大好きな子ども達のために守ります」を浸透させる。 ・「ゼロの日」ファイルを全職員に配付し、指導・活用した資料等を紙媒体で保管させ、いつでも自分事として振り返れるようにする。		・		・		・	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○教職員の服務規律の保持	○市職を含めた全職員対象の「ゼロの日」研修を機を捉えて年間24回以上	・特別支援教育研修会を実施する。 ・有効な手立てを紹介し、各教室の学びやすい環境づくりを進める。特別支援学級においては、仕切り板の活用など、個に応じた場の設定を行う。 ・児童の困り感に寄り添いながら、必要に応じてケース会議や支援会議をもち、環境調整を行う。 ・長期休業時には、個別的教育支援計画や個別の指導計画について、特別支援教育コーディネーターと担任と一緒に加筆修正しながら、より適切な支援の方向性と内容を吟味していく。		・		・		・	
●特別支援教育の充実	○共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの充実と環境の整備	○月1回程度の校内研や特別支援教育に関連する情報や資料を基に、児童が見通しをもち、どの児童も安心して学校生活を送れるように物的・人的環境を整える。 ○家庭や関係機関等と連携し、学期ごとに個別的教育支援計画及び個別の指導計画の願いや手立てを考え、必要な支援を見直ししていく。	・学校だよりやHP、はなまるメールにより情報発信を行うとともに、地域との交流や地域行事等への協力を行う。		・		・		・	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○開かれた学校づくり	○地域との連携による学校教育のさらなる充実 ○保護者・地域各機関と連携した児童の見守り	○授業参観、学校便り、学級通信、はなまる通信等により情報発信を行う。(少なくとも隔週に1回発行する。)	・学校だよりやHP、はなまるメールにより情報発信を行うとともに、地域との交流や地域行事等への協力を行う。	・		・		・		教頭・教務主任

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------